『むらさき倶楽部』のあゆみ

堂林自治会

製作協力：音楽療法グループもりの声
協　　賛：財団法人日本科学協会 平成24年度 笹川科学研究助成

目次

1．『むらさき倶楽部』のあゆみ発刊に寄せて・・・・・・・・・・・・・・・2
堂林自治会 会　長　望月勝
副会長　内山博之
副会長　斉藤雅弓

2．『むらさき倶楽部』とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
むらさき倶楽部 代表　望月由美子
・設立経緯及び目的
・活動内容

3．『むらさき倶楽部』における音楽セラピーの役割・・・・・・・・・・１０
・平成 24 年度笹川科学研究助成による研究からの報告
音楽療法グループもりの声 音楽療法士　勝山真弓
・研究監督者からの評価
大阪大学大学院文学研究科 臨床哲学教授 浜渦辰二

4．『むらさき倶楽部』参加者の声・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
・保科春子　・岡澤正美
・佐野みつ子　・井上温子
・田中万恵　他

5．「鳥井久吉さんを偲んで」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
運営スタッフ　松尾美智子
杉山泰子
若槻輝江

6．編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

『むらさき倶楽部』のあゆみ発刊に寄せて

堂林自治会 会長
望月　勝

此のたび、むらさき倶楽部の歩み発刊にあたりご挨拶申し上げます。日ごろ皆さまには自治会運営にご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成 20 年に堂林自治会の高齢者いきいき事業の一環として「むらさき倶楽部」を立ち上げて 5 年間の「あゆみ」ができましたことは大変意義深く大きな喜びです。

スタッフが四季折々にテーマを決め企画し活動を献身的に展開していただきましたことに衷心より敬意と感謝申し上げます。

本年は静岡県コミュニティづくり推進協議会主催の 24 年度コミュニティ活動賞への参加で「奨励賞」という評価をいただき受賞されました。

これもひとえに、スタッフ代表の望月由美子さん、故人、鳥井久吉氏、スタッフ、協力委員の皆さまの取り組む姿勢と熱意の賜物と思っています。

そして音楽セラピー講師の勝山真弓氏との出会いで真弓先生の音楽セラピー研究事業に共同協賛として関わりその結果、「笹川科学研究」の助成を得ることによって外部講師を招いての特別企画などが行われ充実した内容に発展してまいりました。25 年度に向け、今後とも高度な企画力とスタッフ各位の英知を結集して倶楽部の繁栄とスタッフの皆さまのご健勝ご活躍をご祈念申し上げます。

堂林自治会　副会長
内山博之

早いもので「むらさき倶楽部」が堂林自治会の高齢者いきいき事業の一環として発足して以来５年になりました。これもひとえに倶楽部の役員の皆さんやスタッフ、協力員のみなさんのご支援の賜物でありご苦労に感謝いたします。毎月いろいろな催し物を考え手配されることは並大抵のことではありませんが、参加者からは、いつも笑顔に溢れ感動と活力が湧き若さが保つと感謝されており、また、この事業は各所で注目されております。私たちは、暮らしの豊かさを享受する中で、少子高齢化や核家族化が進展し同時に地域コミュニティの希薄化が顕著になってきました。65歳以上の（まだ若い！）地域の皆さんが健康で「いきいき」と暮らし、いつまでも若さを保つために、自治会のみなさんの暖かいご支援をお願いするとともに、ますます発展されますよう期待いたします。

堂林自治会　副会長
斉藤雅弓

平成二十年に堂林自治会の中で高齢者思いやり行事として、むらさき倶楽部が出来ました。自治会の行事に合わせ、どんど焼き、餅つき、バーベキュー大会、堂林まつり、防災訓練など参加してきました。又、音楽セラピー、クリスマス大会、ヤクルト健康教室、ペタンクや陶芸教室など楽しくやっています。警察の交通安全教室「振り込め詐欺」の勉強もしてきました。月１回ですが、皆楽しく遊び学んでいます。

『むらさき倶楽部』とは

むらさき倶楽部 代表
望月由美子

◆設立経緯及び目的

むらさき倶楽部は、平成20年度より、堂林自治会の高齢者いきいき事業の一環として、自治会からの要請を受け「堂林自治会員を対象として、高齢者（65 歳以上）の現状を把握する」目的で活動を開始しました。高齢者に直接自治会館に来館していただき、毎回テーマに添った催しを企画・構成する。と同時に、在宅における高齢者の実情をも把握できる活動を展開しています。また、自治会員全員が参加メンバーであり、同時に企画スタッフでもある状態になる事を目標としています。

◆活動内容

毎月1回、テーマを決めて企画を行っています。もしくは自治会の行事とコラボして開催しています。開催日は、第2もしくは、第3土曜日、または、自治会行事日です。

5名のメインスタッフと自治会三役、堂林協力員、民生委員が事前に打ち合わせを行い、企画・構成していきます。

今までに音楽セラピー企画、熱中症対策講座、ヤクルト健康講座、バルーンアート、陶芸教室、カラオケ大会、オレオレ詐欺防犯講座、スポーツ大会（ペタンク、スポーツ吹き矢、ボーリング、輪投げ、グラウンドゴルフなど）、カルタ大会、どんど焼き、楽器演奏、戦争の話、手遊び、お茶を楽しむ会、防災訓練、夏祭り、独居高齢者の家庭訪問など、様々な内容を展開してきました。そして、平成25年3月現在で56回目となりました。ここまで続けてこれたのも、参加して下さる会員の皆様

の意気込みと、協力して下さる自治会の方々のおかげです。

本年度は、音楽セラピストの勝山真弓さんとの研究事業に協力し、新たな企画を行う事が出来ました。特に、大阪大学教授の浜渦氏による講演会やケーナ、トロンボーンの演奏会には、多数の会員の参加があり、またそれをきっかけに新会員の参加、特に男性会員の参加が増えてきました。また、マンネリ化を防ぐための新企画と同時に、安心感のある継続された企画も並行して行っています。

今後も、外部講師や、会員講師を依頼しての企画、堂林自治会行事とのコラボ、スタッフを指導者にしての企画等を実施して行きます。また、在宅高齢者への声掛けや、参加する為の援助などを行い、堂林自治会の高齢者を身守り、生活の様子を把握することに努めていく事や、災害に備え『顔見知り』の関係を作る為、防災訓練への参加を多くの高齢者の方々にしていただけるようにしていこうと思っています。

◆活動の一部紹介

「どんなことをやっているのだろう？」

と思っている方

一度のぞいてみませんか

「私でも出来るのかしら？」

と心配な方、

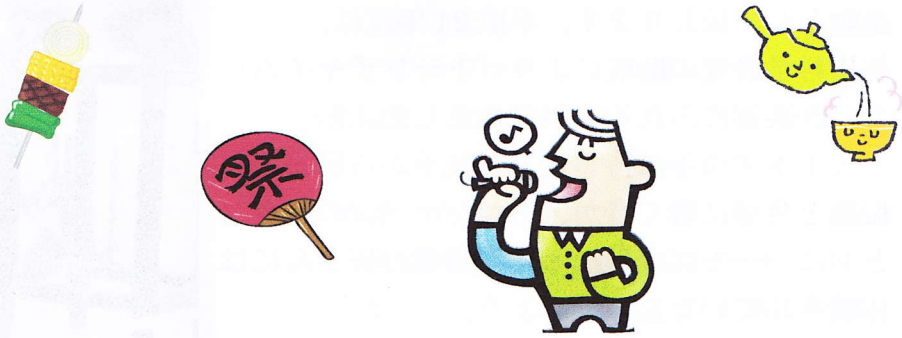
大丈夫ですよ！

誰もが楽しめるように工夫し、どんな形での参加でも構いません。

「この回だけ、興味がある！！」

と思った方

興味のある回だけを選んで下さい！



そして子ども達も、こどもスタッフとして参加しませんか？

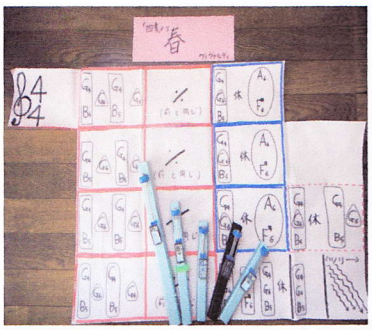
自治会にある和太鼓を使っての音楽セラピーを楽しんだ回もありました。

音楽は、耳で聞くものだと思っていませんか？
楽器に触れて、自分で叩くということは、
音楽が耳からだけでなく手や体からも
振動として伝わります。平成24年度は、
笹川科学研究の助成により「トーンチャイム」
という楽器にふれる事ができました。
一人1本ずつ手に持つことで、手から伝わる
振動と会場に響く音が、トロンボーンの音色
と共にハーモニーとなって参加者の皆さんには
体験されていたことでしょう。

10月はトロンボーン演奏家とのコラボ体験
でした。3つのチームに分かれてそれぞれ1曲、
一人1音を担当しました。演奏曲は「四季より“春”（ヴィヴァルディ作曲）」に始まり、♪遠き～山に～でおなじみの「交響曲第9番 新世界より“ラルゴ”（ドヴォルザーク作曲）」そして、「威風堂々（エルガー作曲）」の3曲メドレーです。

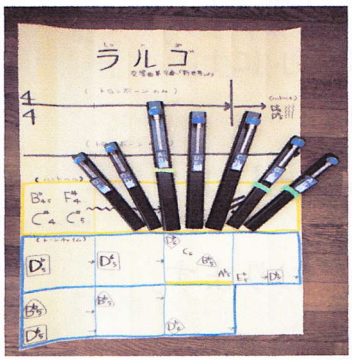
この日参加して下さった皆さん
全員の力が合わさることで合奏が
完成したのです。

≪ 四季より 春 ≫



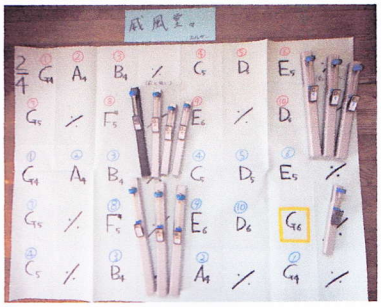
これがメドレー1 曲目です。
なんだか難しそうに
感じられるかもしれませんが、
音楽セラピーでは
“おたまじゃくし” は出てきませんし、
楽器を習得することが主ではないので
安心して下さい。

≪ ラルゴ ≫



メドレー2 曲目も確かに、
“おたまじゃくし” はないけど、
アルファベットが難しいそう！！
いえいえ、大丈夫です。〒や¥、%などの
記号だと考えて下さい。
順番に並んでいますのでスタッフさんの
合図で手を動かせばＯＫです。
慣れてきたら、合図を出す事に挑戦
することもできます。

≪ 威風堂々 ≫



さあ 3 曲目まできたらもう安心。
この曲は自分の数字を
覚えるだけでＯＫ。
後は、スタッフさんと息を
合わせるだけです。

若い方々も是非ご協力下さい。一緒に楽しみましょう。

むらさき倶楽部の願い

誰もが、むらさき倶楽部へ足を運ぶ事を
「日常」の一部に加えて頂けたら嬉しく思います。
「特別な事」ではなく**「いつもの事」**に！！

声を出して・笑って・楽しみましょう

是非皆さまの参加をお待ちしております。

皆さまとの出会いに感謝

『むらさき倶楽部』における音楽セラピーの役割

―平成24年度笹川科学研究助成による研究[1]からの報告―

音楽療法グループもりの声
音楽療法士　勝山真弓

1．はじめに

音楽療法は、医療・福祉・教育などの分野と関わりながら人間にとっての健康や幸福への援助としての役割を持っています。元来人間は、家族や文化そして共同体との関係性を伴った環境の中で生活をしており、音楽療法はこれらのことを抜きに考えることはできません。『むらさき倶楽部』における音楽療法（以下音楽セラピー）は、まさにそのような環境での実践でした。共同研究をするにあたり、この『むらさき倶楽部』の活動は、単なる地域社会を構成する共同体である自治会における事業ではなく、自治会員自らの意思で発足したということが大変重要でした。本研究において導き出された成果は、音楽療法にとって大変意義深いものであり、ここに報告する運びとなりました。

2．音楽療法の目的（＝役割）

音楽療法には「音楽療法は、音楽の持つ生理的・心理的・社会的働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動変容に向けて、意図的・計画的に使用すること[2]」という定義があります。しかし、『むらさき倶楽部』における音楽セラピーにとっての目的（以下役割）は、後から生じてくることが理解されました。後述する独居高齢者への展開はその一つです。具体的には、『むらさき倶楽部』として独居高齢者への関わりがまずあります。そして、音楽セラピーを経験している運営スタッフの中に「独居の方へのアプローチとしても良いのでは」という関心が生じたのです。その関心への応答の過程を経ることで初めて音楽セラピーで援助できること、すなわち『むらさき倶楽部』における音楽セラピーの役割が明確となるのです。

---

1 平成24年度笹川科学研究助成により実施した研究「地域社会における音楽療法の意味―自治会との協働による多様な視点を手掛かりに―」財団法人日本科学協会へ報告, 2013, 2。

2 日本音楽療法学会ホームページ http://www.jmta.jp

3．『むらさき倶楽部』における音楽の働き

平成20年から平成23年までの間に、音楽セラピーに参加された方への意識調査を行いました。その結果、『むらさき倶楽部』における音楽セラピーでは、音楽の働きに異なりがあることが示されました。お手伝いをしてもよいという気持ちを持ちながら参加した時は、より他者のことに関心が向き、参加することを大切に参加した時は、自分の気持ちや感情を反映する為に音楽が働いていました。このことは、参加の仕方により音楽の働き方が異なることを意味します。また、音楽についてアンケート調査を行ったところ、音楽そのものというよりは、音楽がどのように体験されるのかが重要であることが示されました。これは“どのように行為されるのか”を意味します。

さらに、トロンボーン演奏を体験した時のアンケート調査で興味深かったことは、音楽を“もの”として表現した方が多かったことです。おそらく民俗音楽の回で使用した楽器のように、トロンボーンという楽器は手に取って奏でることができないことが関係していたと思われます。

目の前に楽器があっても、目の前から音が聞こえてきても、身体の表面に音として触れることと、実際に自らの身体にその感触が伝わり知覚となって意識するのとは異なるということではないかと思われます。これは、先程述べた“どのように行為するのか”ということに関わってくることでした。今後、皆さんとの活動を通してさらに考えていくことになるでしょう。

《牛の皮を張ったタイコ「ボンボ」の体験》

4．『むらさき倶楽部』における音楽セラピーの意味

『むらさき倶楽部』への参加者は、自治会員であることが条件ですが、毎回同じ自治会員で構成されるとは限らず、協力者の顔ぶれも変わります。これは、音楽セラピー参加者の関心によって音楽セラピーに付与される目的が様々に現われることを意味します。とするならば、ここでの音楽セラピーにおいては、集団を構成する自治会員個々の持つ目的に焦点化させて意味づけするのではなく、個々の目的を越えて『むらさき倶楽部』に現われてくる目的にアプローチするというあり方が適していると思われました。そしてその効果は、個々の成長を伴う集団の成長を通して現われてくる意味の変化として見ることができます。人の成長をライフサイクルとして捉えることは一般的ですが、本研究により見えてきた成長は、年齢を基準とするのではなく、自治会員個々における人生の移行の形でした。年齢や性別等、様々な条件の壁を越えることができる音楽セラピーだからこその特徴的な枠組みとして考えていくことができると思われました。このような枠組みは、人と人の関係性が重要視される地域社会においては、自治会員が自らの力で充実した生活を送る為、自らの存在を、自ら自治会という場に位置付けるための援助として、音楽セラピーが活用される為の裏付けにもなっていくでしょう。

別の見方をするならば、「むらさき倶楽部」に関わるという体験は、参加することに始まり、個々の立場で、“私（自分）の存在”が徐々に意識化され、そのあり方が移行していく“場”としての意味をもっているとも言えます。『むらさき倶楽部』という場には、このような役割が隠されているのです。

2012.9.8　音楽セラピー特別企画

「民俗音楽を体験しよう」

2012.10.13　音楽セラピー特別企画

「トロンボーンを体験しよう」

5．独居高齢者への展開

聞き取り調査結果をふまえ、音楽療法のアプローチが必要と思われる独居高齢者を提案し、“もし関わるとしたらどのようなことができるのか”について、運営

スタッフと話し合いを行いました。A氏は、「また、いつか参加してくれることを願い、誘いたい」との考えを示し、その他としては「それぞれの思いは尊重したい」「本人の気持ちがこちらに向くのを待つ」などが述べられ、A氏と同様に長期的な対応の姿勢が見られました。具体的な働きかけとして「親しい方に声をかけてもらう」「実施している内容をお伝えする」「参加した方の声を届ける」などのアイデアがあることが表面化しました。ここに、自治会員と音楽療法士の間に対応のずれが生じていることが浮かんできました。音楽療法士が読み取ることができるのは、聞き取りをしてもらった言語化されたデータからのものでしかなく、提案した独居高齢者を対象化し“何かをすること”として捉えることしかできなかったのです。一方、運営スタッフは、自治会員の普段の生活状況に触れているからこそ、どちらかと言えば“待つ”ことが含まれるような行為を想定して捉えることができていたことが窺えました。ここに、自治会員（住民）が音楽セラピーに関わる意味が付与されることとなるのです。このように、自治会員に導かれた自治会員と共にある音楽セラピーは、長期に継続することで援助内容が現われてくるようなあり方を持っていました。

とするならば、音楽セラピーの役割は、常に自治会員が様々な関係性を保つ事のできる場を提供することなのです。

6．おわりに

今回報告したことは、『むらさき倶楽部』という一つの共同体における成果でした。しかし、地域社会はこのような共同体の集合であると考えるならば、これらの成果は『むらさき倶楽部』に限定したものではなく、他の共同体においても共有できるものではないかと考えられ、筆者の探究している「地域社会における音楽療法の意味」への方向づけともなりました。

視野を広げて見るならば、医療制度が在宅の方向へシフトしている現在、地域社会において弱者にまなざしを向けることがより必要となっています。そのためにも障害を持つ人々が声を上げるだけでなく、同時に社会を構成する人々も、身近なこととして、関心を向けるような土壌創りが必要です。ここにも、真に自治会の掲げる“助け合い・支え合い”という理念の共有に向けて『むらさき倶楽部』の活動が生きてくるでしょう。これからも、『むらさき倶楽部』と共に歩み・成長する音楽セラピーでありたいと思っています。

研究監督者からの評価

大阪大学大学院文学研究科　臨床哲学教授
浜渦辰二

音楽療法とは、必ずしも、セラピストが音楽という手段を使ってクライアントにセラピーを施す、という一方向的な構図で捉えられるものではありません。私の講演でもお話ししましたが、そもそも広くケアという行為からして、ケアする人からケアされる人へケアという行為がなされる、という一方向的な構図では捉えられません。その意味で、ケアする人が疲弊しているから、ケアする人をケアすることが必要だという議論は、ケアをそのような一方向的な行為と考えてしまっているように思われるのです。ケアというのは、ケアする人とケアされる人との間で、場合によっては反転しながらの相互作用のなかで成り立つ共同行為なのです。音楽療法もまた、セラピストが与えクライアントが受け取る、というのではなく、セラピストが与えたものにクライアントが積極的に参加するなかで、その反応をセラピストが受け止め、それに反応することがクライアントにさらに刺激となり、という相互作用のなかで行われる共同行為でしょう。それだけではありません。音楽療法は１対１の共同行為ではなく、一度に多くのクライアントが参加し、彼ら相互の間にも共鳴が起きるような共同行為であり、そのような場を作ることこそ、音楽療法の醍醐味と言ってよいでしょう。

むらさき倶楽部における音楽セラピーの試みは、まさにそのような共同行為としての音楽療法が地域のなかで果たすことのできる役割を追求したものとして、超高齢社会のなかで在宅医療・在宅介護を推進しようとする日本の将来に一つの光を与えるものと言ってよいでしょう。研究監督者として、この試みを高く評価し、今後とも地域共同体のなかに根を張って行くことを期待するものです。

（２１）地域中　清静　平成２４年(2012年)８月２６日（日曜日）

「支える」を「支え合う」に

ケアのあり方提示

清水区　静大名誉教授が講演会

静岡市清水区の堂林自治会の高齢者いきいき事業「むらさき倶楽部」が25日、堂林自治会館で開かれ、静岡大の浜渦辰二名誉教授（臨床哲学）が講演した。

「ケアをし合うことの意味」の題で語り、『ケアする人のケア』が言われるが、だったら、『ケアする人をケアする人のケア』も必要になり、無限に連鎖してしまう」と問題提起した。「一方的に支える、支えられる―ではなく、ケアする人からどこかでケアされる相互的共同行為として捉えないと『支える』を『支え合う』にすることが大切」と訴えた。地域の約40人が参加し、茶菓を楽しみながら和やかな雰囲気で参加者同士も親睦を深めた。

皆でつくろう温かいまち堂林 安全と安心　テーマ 創造と共生

講演する浜渦名誉教授＝静岡市清水区の堂林自治会

2012.8.25（土）音楽セラピー特別企画「ケアをし合うことの意味」

『むらさき倶楽部』参加者の声

◆保科春子

お仲間に入れていただくことがうれしくて、むらさき倶楽部に参加しています。昨年まで、緊急電話の第一報先が、むらさき倶楽部でお世話にになった鳥井さんでした。鳥井さんにはお世話になりました。

現在96歳ですが、毎日「認知症にならないように！」と体を動かしています。69歳から夫と共に体育文化協会に入会しました。
83歳で夫が倒れるまで、いろいろな道を歩きました。その後、4年半の老々介護を経験しました。94歳で圧迫骨折をし、入院・リハビリも経験しました。人生の道もいろいろでした。現在は、皆様に助けてもらい、毎日を過ごしています。（代筆：望月由美子）

＜インタビューを終えて一言＞

輪投げ、スポーツ吹き矢、グラウンドゴルフ、ペタンクなど、積極的にむらさき倶楽部でのスポーツにも参加されています。何より、どれもセンスがあり、高得点をあげられます。尊敬する人生の先輩です。（望月）

◆岡澤正美

「むらさき倶楽部への想い」

私は、平成二十年九月第三回より入会しお世話になっております。会長をはじめとするスタッフ一同の優しさあふれるふれあいと毎月バライティにとんだ催しに楽しく参加させていただいております。
これも偏に家族、近隣の皆様町内の方々による心温まる心づかいのおかげです。

これからもみんなと協力して、歩けるかぎり、笑いと張りの有る生活で頑張り続けて行きたいと思います。
ありがとう　本当にありがとうです。

すばらしいクラブ
岡澤正美さん

参加出来て良かったです
池田忠泰さん

ありがたいです
保科春子さん

楽しかった
柴田つきさん

楽しい
斉藤よし子さん

笑顔で楽しい むらさき倶楽部
網代君江さん

むらさき倶楽部 すばらしいきずな
大鹿敦生さん

最高に楽しいクラブ
小長谷京子さん

ありがとう ございました
岡澤登喜江さん

皆様とお友達が 出来て楽しいです
池田三代子さん

◆ 佐野みつ子

「参加者のひとりとして」

いつも、参加者の立場になって行事を計画して下さる望月由美子さんとスタッフの皆様の優しいお心使いに感謝申し上げます。

むらさき倶楽部の活動を通して、毎月１回、自治会の皆様とふれ合うことができるこの二時間が、衰えつつある私の五感と身体に心地よい刺激を与えてくれます。それは、何も無理をしないでできること。そして、笑いながら、おしゃべりしながらできるからだと思います。むらさき倶楽部に乾杯！

◆井上温子

家に居てもする事がないから来たよ。
皆と会うの楽しみにしてたよ。
できるかな？　ちちんぷいのぷい。やったし。
愛称はイケメンで。カワイイをつけてね。
100 点しか狙わないよ。欲ばるとうまくいかないね。
耳は遠いけど、皆と笑えるのがいいよ。
一人でいるとおやつは食べないけど、おいしいね。
この体操毎日やってるよ。

皆さんの会話から、たくさんの元気をもらっています。
次回が楽しみになる様な企画をたてていきたいと思います。
むらさきで元気になりましょう。

◆田中万恵

「むらさき倶楽部に際して」

むらさき倶楽部の活動に、協力参加させて頂き感じました事は、会員の皆様が生き生きとしている事でした。一般的に年を重ねていくと家こ中に閉じこもりがちですが、むらさき倶楽部の催しに自ら外に出て会に参加する事が、元気になれる源ではないかと思います。

特に音楽セラピーの回では、自分の楽器を持っての演奏参加の姿は、とても楽しそうで皆さんの笑顔が絶えませんでした。毎回二時間程度の企画ですが、終了後帰宅される皆様は、始まる時と比べより朗らかで明るく会話が弾んで居る様に見えました。

この様な会を企画演出して下さるスタッフ皆様のご努力には感謝致します。これからも、より多くの方にご参加をして頂ければと思っております。

鳥井久吉さんを偲んで

「鳥井久吉さんを偲んで」

むらさき倶楽部 運営スタッフ
松尾美智子

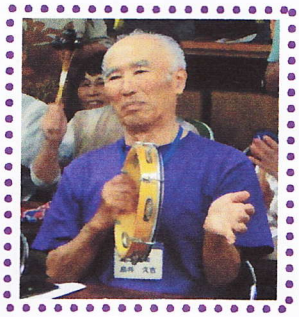
昨年12月の或る日の自治会館の二階です。モールなどで飾りつけられた暖かい部屋の中に、勝山先生の指導で、器楽合奏を終えた20数人のお年寄りが談笑しています。

“メリークリスマス”と赤い衣裳と白いひげのサンタさんが、大きな袋を担いで登場です。そしてサンタさんは、一人一人にニコニコとプレゼントを渡します。そのサンタさんが、鳥井さんです。

誰にでも好かれるやさしさと、親身になって相談に来るその姿が、もう見られないと思うと、とても淋しいです。

むらさき倶楽部の催しに参加したお年寄りの皆さんは、鳥井さんの事を、ずっと忘れない事と思います。

鳥井さん、これからも雲の上からずっと見守っていて下さい。



いつもニコニコ

人の為に尽くして
下さった鳥井さん！！
貴方は私のお手本でした。
後に続き頑張りますので、
見守って下さい。

若槻輝江

スタッフとして、短い間ご一緒させて
いただき、鳥井さんの優しい笑顔と、
静かなまなざしで、むらさき倶楽部の
皆様に接所手いた姿が思い出されます。
まだ、まだ鳥井さんから教えていただき
たかったのに残念です。
いつの日かサンタになって
逢いに来て下さい。

杉山泰子

編集後記

この度、このような冊子を協働作成する運びとなりましたことに感謝申し上げます。平成20年『むらさき倶楽部』発足当初から、音楽セラピーを通じて自治会の皆様と、ご一緒させて戴きました。

静岡市では老人会という名称を改め“シニアクラブ”となったという記事も記憶に新しいところですが、堂林自治会では既に自治会員の声で独自の活動を開始されておられたことは大変素晴らしいことだと思います。公的な機関主催の会に足を運ぶのではなく、自治会の皆さん“自らの意思で歩き始めた会”であることの大切さを、研究を共にして学びました。なにより、研究成果の一端を『むらさき倶楽部』のあゆみ、として共に編むことができたのは、自治会の皆様との出会いが芽を出し育てられてきたからだと思っています。この小冊子をお届けすることで、より多くの自治会員の皆様が『むらさき倶楽部』の活動に触れるきっかけとなり、堂林自治会にとって益々の発展への一助となり得れば幸いです。

運営スタッフの皆様には、原稿作成から製本作業までご協力いただきました。
皆様の自治会への、それぞれの思いが込められた一冊が出来上がりました。
本当にお疲れ様でした。

最後になりましたが、研究にご協力いただきました演奏グループ「グルーポ・アンデネス」「トロンボーンカルテットＥＮ」の皆様、そして本冊子作成にご理解賜りました「財団法人日本科学協会 笹川科学研究助成」に深謝いたします。

（2013年2月　研究代表者　勝山真弓）

発　　行　2013年2月8日
発 行 者　堂林自治会『むらさき倶楽部』
編 集 者　音楽療法グループもりの声
発行協賛　財団法人日本科学協会
　　平成24年度　笹川科学研究助成